

7/29
民初

首相

補佐官更迭を拒否

「法的安定性確保は当然」

安倍晋三首相は二十八日、
の安全保障関連法案に関する
参院特別委員会で、磯崎
陽輔補佐官が法的安定性を
軽視するような発言をした
問題に、野党の更迭要求を拒んだ。憲法解釈

の変更で集団的自衛権の行使を認めても法的安定性は維持されており、安保法案の合憲性に「完全に自信を持つている」と述べた。野党は安倍政権が憲法を軽視していると追及を強めた。

関連③の面

安保法案はこの日、特別委で実質審議入りした。磯崎氏の発言については、民主党の福山哲郎氏が「法的

安定性を放棄して集団的自衛権をやると政府内の人間が認めていた。こんな補佐官は更迭すべきだ」と迫った。

▼ 磯崎陽輔補佐官の法的安定性に関する発言は、憲法との関係とともに、日本を取り巻く安保環境の変化を十分に踏まえる必要があるとの認識を示した。

▼ 法的安定性確保は当然。

首相の答弁ポイント

疑念を持たれるような発言は厳に慎まなければならぬ。菅義偉官房長官が注意。（民主党の更迭要求には応じず）

▼ 集団的自衛権行使を容認した憲法解釈変更是国民を守るため。憲法の範囲内だと完全に自信を持っている。

しなかつた。福山氏は磯崎氏の特別委出席を求めた。

首相は、憲法解釈の変更による集団的自衛権の行使容認について、自国を守る個別の自衛権の行使だけが認められるとしてきた従来の政府見解と論理的に整合していると主張。国際情勢の変化で必然的に「自衛の措置」の範囲が広がつたとの説明を繰り返した。

福山氏は、日本近海で同盟国が攻撃された場合など、安倍政権が挙げる限定的な集団的自衛権行使の事例も含めて、歴代政権は否定してきた経緯を指摘。その上で「一内閣が憲法解釈を変え、法的安定性を崩している」と批判した。審議に先立つ理事会では、自民党が磯崎氏から陳謝があつたことを野党に報告。磯崎氏は党の聴取に運営に迷惑をかけ、心から反省し、おわびを申し上げたい」と述べたという。